

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

福井市長 西行 茂

市町村名 (市町村コード)	福井市 ( 18201 )
地域名 (地域内農業集落名)	南野津又
協議の結果を取りまとめた年月日	令和7年7月 (第 2 回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

## 1 地域における農業の将来の在り方

## (1) 地域農業の現状及び課題

【農業者】「農業を担う者」である個人農家、認定農業法人が担っている。  
【主要作物】水稲  
【その他】各家の子息の多くが集落外(市内都市部や他市町村、県外)に出ており、農業後継者の確保が難しい状況である。

## (2) 地域における農業の将来の在り方

【将来の農業者】「農業を担う者」である個人農家、認定農業法人が担っていく。  
【将来の主要作物】水稲の栽培を行っていく。  
【その他】酒造適合米を栽培し、常山酒造の協力により地域限定酒「黎明」の醸造・頒布に取り組む。

## 2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

## (1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	11.6 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	9.2 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	2.4 ha

## (2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地、その他の区域については農業を担う者の位置づけのある農地を区域内とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
傾斜があり1筆あたりの面積が小さく集積が困難な農地もあるが、集落内で話し合い、基盤整備を行い農地の条件を整え、エリアごとに受け手に配分するなどして、作業効率に配慮しながら農地を集約化していく。
(2)農地中間管理機構の活用方針
今後中間管理機構を利用していく。
(3)基盤整備事業への取組方針
現時点で基盤整備事業の活用は考えていないが、集落で圃場条件の向上に向けた対策を検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
次世代に農地を継承していくため、地域団体やNPOと連携して交流活動に取り組むなどして、後継者の育成・確保につなげていく。集落外から担い手を確保し、農地の管理を委託していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
活用したい。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input type="radio"/> ①鳥獣被害防止対策	-	<input type="radio"/> ②有機・減農薬・減肥料	-	<input type="radio"/> ③スマート農業	-	<input type="radio"/> ④輸出	-	<input type="radio"/> ⑤果樹等
<input type="radio"/> ⑥燃料・資源作物等	-	<input type="radio"/> ⑦保全・管理等	-	<input type="radio"/> ⑧農業用施設	-	<input type="radio"/> ⑨耕畜連携	-	<input type="radio"/> ⑩その他
【選択した上記の取組方針】								
①電気柵等の対策を実施している。								

4 変更申請経歴

・農地の追加による計画区域の農用地面積の増加 1筆 (令和7年7月)
------------------------------------